

米中貿易戦争

例えば、昔、米ソの対立があり、その結果、なぜ「ソ連側」は負けたのか？ それは、経済力がなかったからである。ところが、現在、中国は、共産国（社会主義国）でありながら、アメリカに次ぐ巨大な「経済力」を手に入れたのである。これは、人類史上、初めてのことである。

そして、このままで行けば、やがてはアメリカを抜いて、世界第一の「経済大国」になっていくかも知れない。それは、単なる「経済大国」だけではなく、実は政治的にも軍事的にも「巨大国家」へと変貌していくのである。

例えば、昔、古代ローマ帝国時代、「……すべての道は、ローマに通ず」という諺（ことわざ）があったが、今や、「……すべての道は北京に通ず」というような、まさに巨大な共産主義国の「中華帝国」が誕生するかも知れないのである。それこそは、中国の壮大な国家プロジェクトでもある「一帯一路」の実体である。

そして、今や、アフリカ諸国をはじめ、東南アジア、韓国、北朝鮮、台湾、その他、次から次へとオセロの色が変わる様に「中国色」へと染まっていく可能性が高い。あとは、米国と欧州であるが、欧州も経済援助などで「中国色」に染まる可能性はあるのである。

さて、今や、中国とアメリカとで本格的な「貿易戦争」が始まっているが、しかし、これは、単なる「経済戦争」などではなく、むしろ世界が「アメリカ側（自由主義国側）になるのか、それとも、中国側（社会主義国側）になるのか」の、まさに「一大決戦」の場でもあるのである。（完）